

縄文人の暮らし体験



縄文人の生活に関する展示を見学する来場者

茅野でイベント 竪穴住居「古過庵」1周年祝う

ちの観光まちづくり推進機構（DMO）は23日、茅野市出身の建築家、建築史家藤森照信さんの設計で市民らが協力して与助尾根遺跡跡（同市豊平）の隣接地につくった竪穴住居「古過庵」の完成1周年を記念したイベント「古過祭」を同所周辺で開いた。縄文人の生活を体験するアクティビティや「縄文グルメ」の提供、1年間の活動報告、トークショーなどを通じて節目を祝った。（平岡大輝）

各種体験で縄文の精神を学び、日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」を感じられるイベントしようと初めて企画した。「スペシャルゲスト」として富士見町井戸尻考古館の小松隆史館長と茅野市尖石縄文考古館学芸員の山科哲さんが縄文人に扮し登場。対談では人類が火を扱えるようにな
設計した藤森さん
トークショーも
つたことによる生活の変化などを話題に挙げながら、縄文文化の本質に切り込んだ。藤森さんのトークショーもあった。
同級生や家族と来場し、さまざまなアクティビティを楽しんだ同市宮川小学校5年の五味結衣さん（10）は「火おこしは簡単だと思ってたが、実際やってみるととても難しく、力と技術がいることが分かった」と学びを実感。鹿の毛皮を羽織り、「ふわふわして暖かいな」と笑顔を見せた。